

目標 I

確かな学力の育成

施策

- 施策1 ● 一人一人の学力を伸ばす教育の推進
- 施策2 ● 新しい時代に求められる資質・能力の育成
- 施策3 ● 伝統と文化を尊重しグローバル化に対応する教育の推進
- 施策4 ● 技術革新に対応する教育の推進
- 施策5 ● 人格形成の基礎を培う幼児教育の推進

施策 1

一人一人の学力を伸ばす 教育の推進

現状
と
課題

児童生徒が未来を切り拓いていく力^{ひら}を身に付けるためには、一人一人の成長に着目し、一人一人の学力を確実に伸ばす教育が必要です。

また、児童生徒の発達に対応した教育を小・中学校9年間にわたって行っていくためには、小学校と中学校の間で連続性・系統性等の一貫性を持たせた教育が重要です。

これまでの全国学力・学習状況調査[※]の結果を見ると、本県の小・中学生に対して、学んだ知識や技能を活用する力の育成に一層取り組む必要があります。

本県では、平成27年度（2015年度）から、小学校4年生から中学校3年生までを対象として「埼玉県学力・学習状況調査[※]」を実施し、学習内容の定着度や一人一人の「学力の伸び」を把握して、指導の改善に活用しています。

高等学校においては、中学校までの学習状況を踏まえながら、個々の生徒の学力や学習状況を把握することにより、生徒一人一人の学力や学習意欲の向上に取り組んでいます。

特別な教育的支援を必要とする児童生徒には、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成などにより、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援に努めています。

施策の方向性

- 児童生徒一人一人の学力とともに学習意欲を確実に伸ばす教育を推進します。
- 児童生徒へのきめ細かな指導を充実します。
- 学校間連携や小・中学校9年間の一貫した教育を推進します。

主な取組

「埼玉県学力・学習状況調査[※]」の実施と指導方法の改善

- ▶「埼玉県学力・学習状況調査[※]」を実施し、児童生徒の基礎的・基本的な知識や技能、思考力・判断力・表現力などの活用する力と学習意欲・態度を把握し、児童生徒一人一人の学力・学習意欲を確実に伸ばす学習指導を進めます。
- ▶児童生徒一人一人の「学力の伸び」を分かりやすく示すことにより、学習意欲の向上につなげます。
- ▶学力の経年変化を的確に把握することにより、指導方法の改善につなげます。
- ▶他の自治体と連携し、調査データや効果的な取組を共有します。



▲埼玉県学力・学習状況調査の実施▶

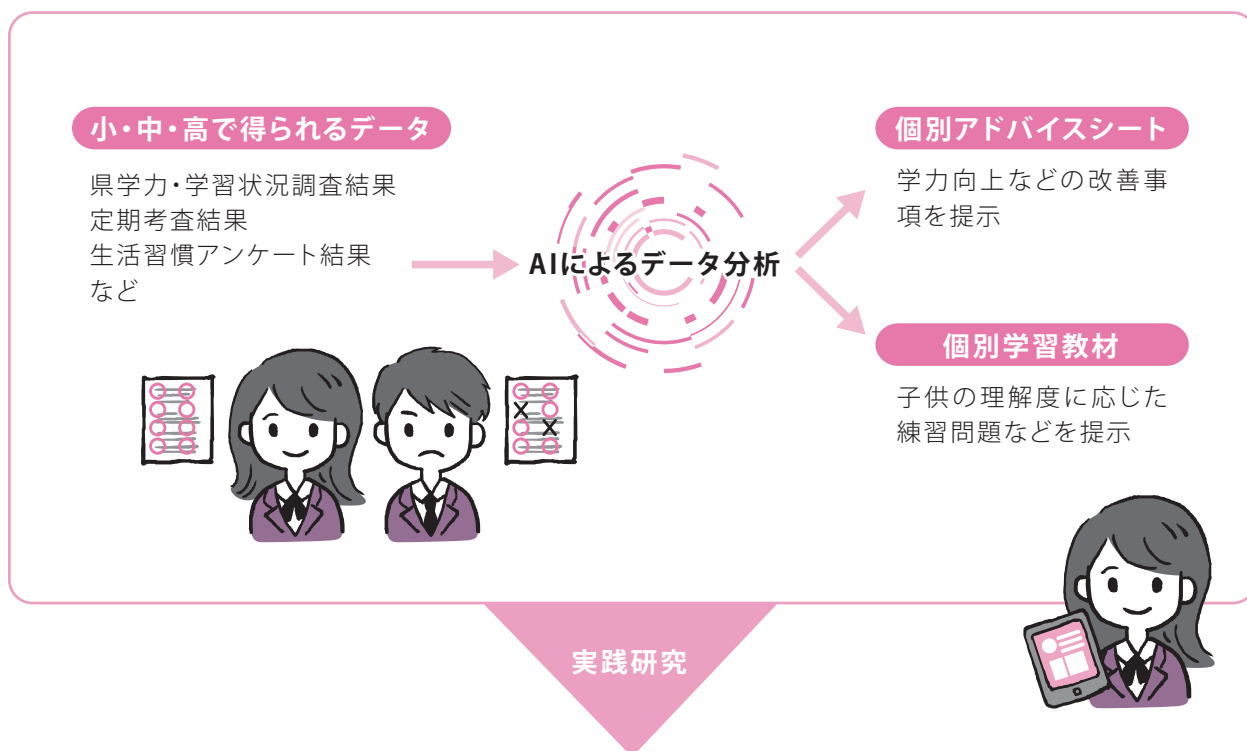


児童生徒一人一人を確実に伸ばす教育の実践

- ▶義務教育段階では、「埼玉県学力・学習状況調査[※]」の結果を、小学校4年生から中学校3年生まで毎年度継続して本人・保護者・学校が共有・活用することにより、児童生徒一人一人の成長を支え、確実に伸ばす教育に取り組みます。
- ▶高等学校では、生徒の学習意欲や学力の向上、自立する力の育成、進路希望の実現に向けて、生徒の成長を本人・保護者・学校が共有・活用することにより、一人一人を確実に伸ばす教育に取り組みます。
- ▶特別支援教育においては、個別の指導計画や教育支援計画に基づき、児童生徒の成長を本人・保護者・学校・関係機関が共有・活用しながら、障害の状況や発達の段階に応じて一人一人の成長を支え、確実に伸ばす教育を実践します。

学習データを活用した個に応じた学びの研究

▶学力テスト等のデータ分析を基に、個に応じた学びの実現に向けた研究に取り組みます。



少人数指導などのきめ細かな指導の充実

- ▶児童生徒に対するきめ細かな指導を実現するため、少人数指導や習熟度別指導、補充的指導など「個に応じた指導」を進めます。
- ▶きめ細かな指導の充実に必要な教員が配置できるよう、国に対して教職員定数の増員を働き掛けます。
- ▶基礎学力に課題を抱えた高校生を対象に、大学生などを学習サポーターとして活用し、義務教育段階の学習内容の学び直しを進めます。

小・中学校9年間を一貫した教育の推進

- ▶小・中学校9年間にわたる児童生徒の学びと育ちの連続性を重視した教育を展開することで、学習意欲の向上や小学校から中学校への円滑な接続を推進します。



施策 2

新しい時代に求められる
資質・能力の育成

現状と課題

複雑で予測困難なこれからの時代においては、変化を前向きに受け止め、社会や人生、生活を人間ならではの感性を働かせてより豊かにする人材や、主体的な学びや多様な人々との協働を通じ、複雑化・多様化した社会の課題解決につなげていく人材を育てることが求められると指摘されています。

こうしたことを踏まえ、自ら問題を発見し、解決する力と困難を乗り越える精神力、十分な知識・技能を基盤として答えが一つに定まらない問題に自ら答えを見いだしていく思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などを、発達の段階に応じて児童生徒に育成していくことが必要です。

本県では、児童生徒が主体的に学びに参加し、話し合い、お互いの関わりの中で考えを統合して自らの理解を深める「協調学習[※]」に取り組むなど、授業の改善を推進しています。

また、ICT[※]機器を利用する時間が増加傾向にある中で、視覚的な情報と言葉の結び付きが希薄になり、文章の構造や内容を的確に捉えながら読み解くことが少なくなっているとの指摘もあります。読書活動は、精査した情報を基に自分の考えを形成し、表現する力などを育むことに資するという観点からも、その重要性が高まっていると指摘されています。

施策の方向性

- 児童生徒の思考力・判断力・表現力等や主体的に学習に取り組む態度を育成します。
- 各高等学校の生徒の進学や就職のニーズに対応し、学校の教育力の向上と生徒一人一人の進路希望の実現に取り組めます。
- 家庭・地域・学校における子供たちの読書活動を推進します。

主な取組

「主体的・対話的で深い学び[※]」の視点からの授業改善の推進

- ▶ 児童生徒が主体的に授業に参加し、児童生徒同士や教員とが相互に意見を述べることで課題を多面的に捉え、より質の高い思考力・判断力・表現力等を身に付ける「協調学習[※]」に取り組むなど、授業改善を推進します。
- ▶ 大学や研究機関、企業と連携して、児童生徒のコミュニケーション能力や問題発見・解決能力、情報活用能力[※]など、知識基盤社会[※]を生きていくための基礎となる力を育成します。



▲主体的・対話的で深い学びの実践▶



指導内容・指導方法の工夫・改善

- ▶ 新しい時代に求められる資質・能力の育成に向けた教育課程を着実に実施するため、研修会や指導資料などを充実し、各学校における指導内容・指導方法を工夫・改善させるとともに、カリキュラム・マネジメント[※]を確立させます。
- ▶ 高等学校においては、生徒の学習意欲や能力を高めるため、大学や研究機関などと連携した授業を取り入れるなど、指導内容・指導方法を工夫・改善します。また、多様な地域の力を学校と結び付ける取組により、高等学校や特別支援学校における実社会からの学びを充実します。

高校生の学習意欲・学力向上の取組の推進

- ▶ 進学指導の充実や基礎学力の定着、自立する力の育成など、生徒のニーズに応じた高等学校の取組を支援し、学校の教育力の向上を実現します。
- ▶ 「高校生のための学びの基礎診断[※]」などを活用して、高等学校で学ぶ生徒の学習意欲・学力の向上に取り組む、生徒一人一人の進路希望の実現を目指します。
- ▶ 高等学校教育・大学入学者選抜・大学教育の一体的な改革を目指す高大接続改革[※]に適切に対応し、高等学校卒業後につながる学びを推進します。

読書活動の推進

- ▶ 家庭・地域・学校において子供が読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実を図ります。また、子供の読書活動に関する啓発・広報を行うとともに、読書に親しむための推進体制の整備を行います。

施策3

伝統と文化を尊重し

グローバル化に対応する教育の推進

現状と課題

これからの社会を主体的に生きる日本人を育成するためには、伝統と文化を尊重し、我が国と郷土埼玉を愛する態度や他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う教育が大切です。

近年のICT[※]や交通分野での技術革新によりグローバル化は更に進み、人々の生活圏も広がっており、国内においても地域が直接世界とつながるようになってきました。また、本県ではラグビーワールドカップ2019[※]や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会[※]の競技が開催されます。

こうした中で、国内外の様々な場においてグローバル化に対応できる力や多文化共生の精神を子供たちに育むことが必要です。また、地球規模の課題を自ら発見し、解決する能力を有した、世界で活躍できる人材の育成も求められます。

そのためには、多様な価値観を受容し、他者とともに国際的な視野を持って地域社会の課題を解決する力や外国語も含めたコミュニケーション能力を高める教育の充実を図ることが必要です。

施策の方向性

- 伝統と文化を尊重し、我が国と郷土埼玉を愛する態度を養います。
- グローバル化の進展に対応する力を育む教育を推進します。
- 小・中学校、高等学校における外国語教育などを充実します。

主な取組

伝統と文化を尊重する教育の推進

- ▶我が国の伝統と文化、歴史や地理に対する理解を深め、我が国に対する誇りを育む教育を推進します。また、地域の資源を活用するなど、郷土への誇りを育むため、郷土埼玉の偉人や歴史・風土などに関する教育を充実します。

グローバル化の進展に対応する力を育む教育の推進

- ▶学校における教育活動全体を通じて、視野を広げ、国際社会の平和と発展に寄与する態度、チャレンジ精神などを育む教育を進めます。また、生徒の国際交流や海外研修を推進します。
- ▶児童生徒の発達の段階に応じ、多文化共生の精神を育成する教育を進めます。



▲マサチューセッツ工科大学訪問

世界で活躍できる人材の育成

- ▶世界で活躍できる人材や多文化共生の精神を育成するため、幅広い教養や異文化理解の精神、課題解決能力などの国際的素養を育む教育を推進します。
- ▶関係機関と連携し、生徒の海外留学を支援します。

持続可能な開発のための教育（ESD）[※]の推進

- ▶地球規模の課題を自らの問題として捉え、課題解決に向けて自ら考え行動を起こすことができる担い手を育むため、持続可能な開発のための教育（ESD）[※]を推進します。

オリンピック・パラリンピック教育[※]の推進

- ▶ラグビーワールドカップ2019[※]や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会[※]の成功とそのレガシーとしてのスポーツ、教育、文化等の継承に向け、スポーツやこれらの大会の意義、価値等に対する国民の理解・関心の向上、ボランティア精神の涵養、多様な文化や障害者に対する理解の促進等を図ります。

英語をはじめとした外国語教育の充実

- ▶児童生徒のコミュニケーション能力を高める外国語教育などを充実するため、小・中学校、高等学校の一貫した学びを重視し、教員の指導力や専門性を向上させるほか、高等学校への外国語指導助手の適切な配置などに取り組みます。



▲ハーバード大学の学生による講義

施策 4

技術革新に対応する 教育の推進

現状と課題

今後、技術革新は更に加速し、第4次産業革命とも言われる、IoT[※]やビッグデータ[※]、AI[※]などといった技術革新の進展により、社会や生活を大きく変えていく超スマート社会（Society 5.0）[※]が到来すると予想されています。

こうした技術革新に対応する人材を育てるためには、あふれる情報の中から必要な情報を読み取り、進歩し続ける技術を使いこなすことができるよう、子供たちの科学技術や理科・数学、ものづくりに対する関心・素養や情報活用能力[※]などを高めるための取組を推進することが求められます。

また、未来に向けて、新たな価値を創造していくためには、社会の持続的な発展を牽引^{けん}し、イノベーションの創出につながる次代の科学技術を担う人材やアントレプレナーシップ[※]（起業家精神）を備えた人材の裾野の拡大に取り組む必要があります。

施策の方向性

- コミュニケーション能力、問題発見・解決能力、情報活用能力[※]を育成します。
- 子供たちの科学技術や理科・数学、ものづくりに対する興味・関心を高め、基礎的素養や論理的・科学的に考える力を育成します。
- 新たな価値を生み出し、社会の持続的な発展を牽引^{けん}する人材を企業等と連携して育成します。

主な取組

「主体的・対話的で深い学び[※]」の視点からの授業改善の推進（一部再掲）

- ▶ 大学や研究機関、企業と連携して、児童生徒のコミュニケーション能力や問題発見・解決能力、情報活用能力[※]など、知識基盤社会[※]を生きていくための基礎となる力を育成します。
- ▶ 児童生徒が教え合う学び（協働学習）や一人一人の能力・適性に応じた学び（個別学習）などにICT[※]を効果的に活用し、社会で生きていくために必要な資質・能力を育成します。
- ▶ 障害特性に応じてICT[※]を活用することにより、学習上の課題や困難を改善・克服し、障害のある児童生徒の能力を伸ばします。
- ▶ 小学校におけるプログラミング教育[※]の円滑な実施を支援します。



▲プログラミング教育研修会

科学技術等への関心を高める取組の推進

- ▶ 地域や企業の人材を活用した観察や実験の授業などを通して、実社会・実生活との関連についての指導を充実し、科学技術や理科・数学、ものづくりに対する子供たちの関心を高めます。

情報活用能力[※]の育成

- ▶ 情報と情報手段を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を育成するため、ICT[※]などを活用した学習活動を充実するとともに、情報社会のルールや情報セキュリティ、情報モラルの適切な指導を行います。
- ▶ 全ての教員がICT[※]を活用した実践的な指導ができるよう、指導力の向上のための研修を充実します。

社会の持続的な発展を^{けん}牽引する人材の育成

- ▶ 将来、科学技術分野で活躍できる人材を育成するため、大学や研究機関と連携し、生徒の能力・才能の伸長を図ります。
- ▶ 企業等の経営者との交流の機会や多様な文化に触れる機会を提供し、生徒自らが答えが一つに定まらない課題に取り組むことにより、豊かな創造性や課題解決能力などの向上を図り、アントレプレナーシップ[※]を育成します。

施策5

人格形成の基礎を培う
幼児教育の推進

現状と課題

近年、幼児期における教育が、その後の学力や運動能力、大人になってからの生活に与える影響に関する研究が進展しており、幼児期から質の高い教育を提供することの重要性が指摘されています。

幼稚園や保育所、認定こども園[※]は、それぞれ設置目的に違いがあるものの、生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児期においていずれも大切な役割を果たしています。それらの取組には、子供の教育について第一義的責任を有する家庭や地域との連携・協力が不可欠です。

子ども・子育て支援新制度[※]に基づき、保護者の就労の有無にかかわらず、幼児が適切な教育・保育を受けられるようにするため、幼稚園・保育所がそれぞれの特長を生かした教育・保育を提供できるようにするだけでなく、両者の一体的な提供が求められています。

また、小学校生活に適應できない「小1プロブレム[※]」に対応し、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、幼稚園・保育所・認定こども園[※]と小学校との十分な連携が課題となっています。

幼稚園・保育所・認定こども園[※]などの施設や機能を活用し、積極的に子育てを支援していく必要があります。

施策の方向性

- 家庭や地域と連携・協力した幼児教育を推進するとともに、幼稚園教諭・保育士・保育教諭の資質向上を図ります。
- 子ども・子育て支援新制度[※]に基づく教育・保育の提供に向けた取組を推進します。
- 子供の発達や学びの連続性を視野に入れた幼児教育を充実します。
- 幼稚園・保育所・認定こども園[※]などを活用して、子育て支援を充実します。

主な取組

家庭や地域と連携した幼児教育の推進

- ▶ 幼稚園教育要領[※]、保育所保育指針[※]や幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を踏まえ、幼稚園・保育所・認定こども園[※]において、家庭や地域と連携・協力しつつ、生きる力の基礎を育む幼児教育を推進します。
- ▶ 小学校入学までに子供たちに身に付けてほしいことをまとめた子育ての目安「3つのめばえ」[※]の活用を促進します。

幼稚園教諭・保育士・保育教諭の資質能力の向上

- ▶ 幼児理解を深めるとともに、幼児一人一人に対応した指導方法の工夫・改善を図るため、幼稚園教諭・保育士・保育教諭を対象に、ライフステージに応じた研修会などを実施します。

認定こども園[※]の設置促進

- ▶ 認定こども園[※]の設置を促進し、質の高い教育や保育サービスを提供します。

幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続

- ▶ 小学校教育への円滑な接続を図るため、幼稚園教諭・保育士・保育教諭と小学校教員との相互交流や合同研修会の開催、幼児と児童の様々な交流活動などを推進します。
- ▶ 各地域の実態に応じた、教育課程の接続に向けた市町村や小学校単位での協議会などの実施を促進します。



▲幼保小連携推進協議会



幼児と児童の交流活動▶

幼稚園・保育所・認定こども園[※]などを活用した子育て支援の充実

- ▶ 幼稚園・保育所・認定こども園[※]の施設や機能を活用して、保護者の保育参加を進めるとともに、地域子育て支援拠点[※]の運営を支援し、親としての育ちや子育てを支援します。